ろうきん森の学校5周年記念シンポジウム

記念講演資料

広瀬敏通（NPO法人ホールアース研究所代表理事）

労働金庫連合会50周年記念社会貢献活動

ろうきん森の学校5周年記念シンポジウム　記念講演

森の学校が地域を変える

ー協働事業による新たな挑戦の軌跡ー

2009／12／9

NPO法人　ホールアース研究所

代表理事　広瀬敏通

NPO法人ホールアース研究所　1

「ろうきん森の学校」とは

1．開校の経緯

① ろうきんの理念

協賛団体である、労働金庫連合会（ろうきん）が掲げる理念とは

② ろうきんと自然学校

労働金庫連合会とホールアース自然学校の接点と親和性とは

③ ろうきん森の学校のコンセプトと基本方針

活動の原点・基本的な考え方とは

④ 3地区の選定

全国のモデルとなるべく、東日本・中日本・西日本から3地区を選定

2　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

1.　開校の経緯

①　ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。

ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。

ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。

会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。
ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。　（ろうきんの理念より）

3　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

1.　開校の経緯

②　ろうきんと自然学校の特徴　～目指す社会は同じ～

ろうきん

●非営利の金融機関
●経済のみならず、福祉・環境・文化に関わる活動を促進
●人々が喜びと持って共生できる社会の実現に寄与する
●勤労者のみならず、市民団体などのネットワークによって成立

共通・共感

自然学校

●子どもから大人まで幅広い層を対象
●専門性を持った指導者と、フィールドがあり、そこで実施できるプログラムを持つ
●里山地域のみならず、都市部でも活動を展開する団体もある
●持続可能な社会の実現を目指す

4　NPO法人ホールアース研究所

ろうきん森の学校とは

1.　開校の経緯・・・全国事務局

NPO法人ホールアース研究所とは

ホールアース自然学校が母体

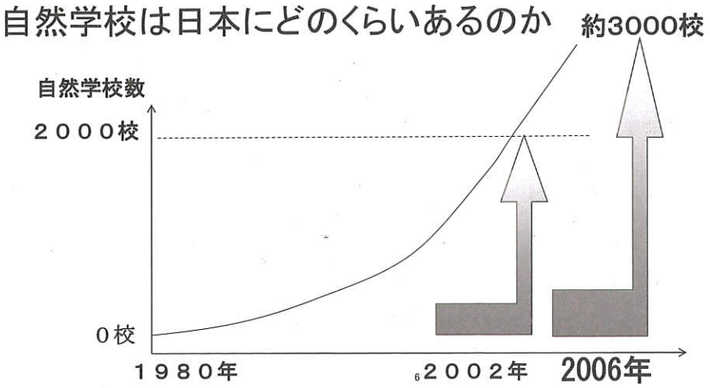
●富士山麓に本拠を置き、**27年前**より活動を開始
●現在、富士山本校の他、沖縄・新潟・岡山・神戸など**7つの活動拠点**を持つ、民間の環境教育事業所
●常勤職員35名他、研修生など40名のスタッフを擁する
●年間のプログラム参加者はのべ6万人
●**2002年にNPO法人ホールアース研究所を設立**
→「人と地球と地域を元気にするNPO法人」がモットーで、国内外の地域活性化、企業CSR活動の支援など多数の実績を持つ

5　NPO法人ホールアース研究所

ろうきん森の学校とは

日本の自然学校の誕生

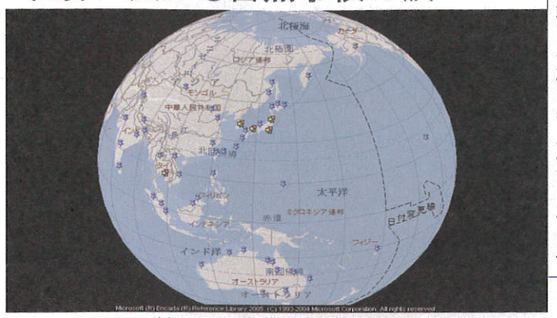
自然学校は日本にどのくらいあるのか



6

ろうきん森の学校とは

世界に広がる自然学校の波



韓国・中国・インド・インドネシア・マレーシア・タイ・カンボジア・フィリピン・NZ・オーストラリア・ロシア・フィンランド・ノルウェ・チリ・ブラジル・ペルー・コスタリカ・パナマ タンザニア・ガーナ・イギリス・スペイン・イタリー・ドイツ・フランス・デンマーク・スイス・オーストリア・マラウィ・エチオピア・ケニヤ・・・・・・・・・・

日本＝３０００校以上（２００６年全国調査）

北米＝１万数千校（１９９６「自然学校宣言」シンポでの報告

（１９９９年　日経記事「夏休みに８１０万人参加、１兆５千億円の効果」）

ろうきん森の学校とは

自然学校の様々なテーマ

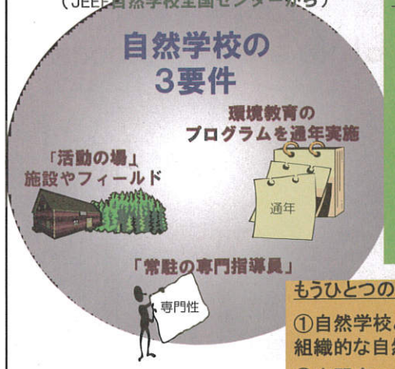
- 生き方・暮らし方をテーマにした自然学校
- 地域振興を担う自然学校
- 人材育成をする自然学校
- アウトドアスポーツの自然学校
- 自然体験プログラムに特化した自然学校
- エコツアー型の自然学校
- 都市環境をテーマにした自然学校
- 幼児教育の自然学校
- 国際協力の自然学校
- 自然保護活動の自然学校
- 企業のCSRを担う自然学校
- 制度・政策つくりを担う自然学校
- 学校教育と連携する自然学校
- 異文化教育・開発教育に取り組む自然学校

9

ろうきん森の学校とは

自然学校の要件

（JEEF自然学校全国センターから）



良質の自然体験活動に必要なもの
自然学校というシステム

- *環境教育の機会を提供するために、*
  - ①良質な自然体験がおこなえる「活動の場」としての施設やフィールドがある
  - ②専門性を持った「指導員が常駐」している
  - ③自然体験や環境学習をテーマにした「プログラムを通年実施」できる
  - ④組織運営のための仕組みを作る「プロデュース」できる
  - ⑤組織と活動のリスクを管理する「安全管理」ができる

（JEEF自然学校センターの狭義の定義）

もうひとつの3条件

①自然学校とは「人と人」「人と自然」「人と社会」をつなぐ組織的な自然体験活動を指す。

②専門家の指導で安全に楽しく活動をする

③責任者・連絡先・プログラム・活動場所・参加者がいる

ろうきん森の学校とは

自然学校の多様な運営形態

- 民間の独立自営型
- 行政主導型
- 公設民営などパートナーシップ型
- ネットワーク型
- 企業経営型
- 任意団体・NPO企業・個人商店
- 国、自治体、公益法人運営
- 指定管理者NPOの運営
- 公益法人、NPO,任意団体
- 株式、有限会社

10

自然学校運営のかたち

設置運営主体	概要	例	メリット	課題
公設公営型	行政などの公的機関が施設を設置。プログラム運営指導も公務員や外郭団体職員が中心となって行う。	国公立青年の家 国公立少年自然の家	・低価格でPGを提供できる。 ・宿泊研修ができる	職員が2～3年で異動し、ノウハウと専門性が蓄積されない 硬直した管理運営体制
民間独立自営型	専門性を持った民間の事業者が自ら自然学校を経営。資金的にほかのセクターに依存しない。	ホールアース自然学校 国際自然大学校 くりこま高原自然学校	独自の理念と立場に沿った自然学校経営ができる	社会的評価を得て、実績を積むのが困難。 経営的に自立できない事業者が多い。
企業立・民間委託型	民間の公益法人や株式会社が施設を設置し、PG運営指導を民間の専門団体、事業者に委託。	トヨタ白川郷自然学校 東京ガス　環境エネルギー館 東京電力柏崎環境学校	冠企業の特色を活かした経営ができる 運営予算は企業が負担する	社会貢献型の場合、低予算。 ビジネス重視型の場合、ノルマが課せられる
公設民営型 指定管理委託型	行政などの公的機関が施設を設置し、 PG運営は受託した民間事業者が行う。	田貫湖ふれあい自然塾 山梨県自然ふれあいセンター、千葉自然学校	受託者にとって最初の設備投資が不要。 施設自体の社会的評価	行政担当者の意向で左右されるリスクが高い。 予算確保が困難。
個人(商店型)経営	フリーランス(個人)でPGの企画・運営やライトな受託を受けて行なう 施設を持たない。	環境共育事務所カラーズ 風と土の自然学校 伊豆自然学校	身軽なスタンス。 プロジェクトごとに他者とチームを組める。	個人のキャラクターが唯一の資本。
NPO法人任意団体 (いわゆるボランティア団体)	収益は問わない。 スタッフも非常勤、無報酬が多い。	F-CONE、 いしかわ自然学校 京都自然教室	ネットワークを組みやすい ノウハウは共有しやすい	中核的な組織団体が生まれにくく、中心メンバーの負担が大きい 継続的な活動が困難

ろうきん森の学校とは

ホールアース自然学校10のテーマ

自然体験活動プログラム
自然・環境調査、研究
地域・農山漁村振興事業
指導者・人材養成

自然学校　全仕事

エコツーリズム研究・開発
企業の社会責任(CSR)支援
国際協力途上国支援
災害救援
環境系ネットワーク運営支援
政策研究・提言

“自然体験・エコツアー”だけではない総合型の自然学校

12

ろうきん森の学校とは

自然学校の大きな波

●地域を元気にするあらたな拠点として注目される自然学校

●21世紀型の社会企業として世界各地に広がる

13

「ろうきん森の学校」とは

1.　開校の経緯

③　ろうきん森の学校のコンセプトと基本方針

「ろうきんの森構想」で出された3つのコンセプト

1.厳しい環境の中で働く勤労者等に精神的な安らぎを与える「緑」

2.身体を動かす喜びと「健康の維持」

3.「地球環境保全」への共感と参画

14
14

NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

1.　開校の経緯

③　ろうきん森の学校のコンセプトと基本方針

「ろうきん森の学校」の基本方針

1.地球温暖化防止に対して足元から取り組みます
2.地域の多様な自然を取り戻します
3.里山を活かした暮らしの提案・発信をします
4.森づくりから始める人づくりを行います
5.地域全体で活動に取り組みます
6.自律した運営を目指します

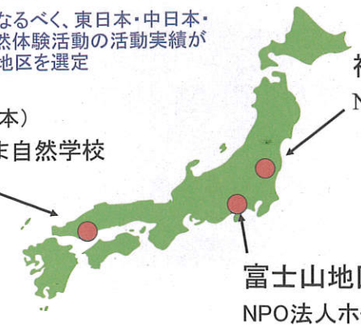
15　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

1.　開校の経緯

④　3地区の選定

全国のモデルとなるべく、東日本・中日本・西日本から、自然体験活動の活動実績があるNPO法人と地区を選定



16　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

2. 活動概要　～4つのポイント～

① 豊かな森の再生～里山の再生～
荒廃した人工林、二次林を除間伐し、美しい森を再生する

② 人材の育成～森づくりから始める人づくり～
森林を活用した自然体験活動指導者の育成の他、森林整備など活動を通じて関係者の環境意識醸成にも取り組む

③ プログラムの開発～「循環型地域モデル」の発信～
楽しみながら里山の自然・地域の知恵を学べるプログラムを開発

④ 地域と共に行う～様々な関係者との協働～
地域住民、地区労金など関係者の理解と支援を得ながら活動展開

17　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

2. 活動概要　～4つのポイント～

① 豊かな森の再生～里山の再生～
荒廃した人工林、二次林を除間伐し、**美しい森を再生**する

人工林の間伐（富士山地区）

植林後の下刈（広島地区）

18　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

2. 活動概要　～4つのポイント～

② 人材の育成～森づくりから始める人づくり～

森林を活用した自然体験活動指導者の育成の他、森林整備や地域環境の整備など、活動を通じて関係者の**環境意識醸成**にも取り組む

自然体験リーダー養成講座（福島地区）

地区労金職員研修でも活用（広島地区）

19　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

2. 活動概要　～4つのポイント～

③ プログラムの開発～「循環型地域モデル」の発信～

楽しみながら**里山の自然・地域の知恵を学べるプログラム**を開発

休耕田に小麦を播き、小麦を収穫してパンを焼く「小麦プロジェクト」（広島地区）

20　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」とは

2. 活動概要　～4つのポイント～

④ 地域と共に行う～様々な関係者との協働～

地域住民、地区労金など**関係者の理解と支援、協働**による活動展開

広島県労働者福祉協議会主催の森林ボランティア作業を広島地区で実施。写真は終了後のバーベキュー風景

田貫湖エリアで恒例となっている「田貫湖秋まつり」。地元猪之頭地区の協力も得て開催。

21　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」の背景

企業・団体がNPO（自然学校）と協働する背景にあるもの

① 自然学校の全国的な広がり

2005年の愛地球博以降急速に広がり、企業や行政も自然学校運営に取り組むようになってきた。

② 環境分野でのCSRを果たす取り組みの活発化

CSR（企業の社会的責任）を果たす取り組みで環境分野が注目され、環境経営がどの業種でも経営戦略で重要視されるようになってきた。

③ 中山間地の過疎化と里山の荒廃

過疎化高齢化により里山が荒廃し、環境だけでなく、伝統文化や知恵が失われつつある。

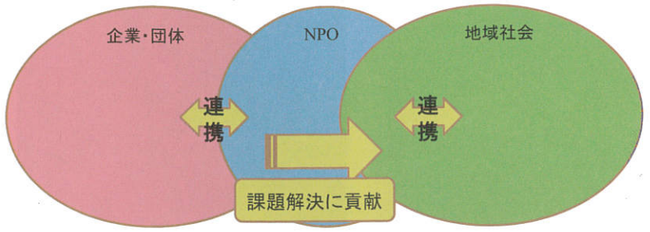
④ 勤労者を取り巻く厳しい状況

不況・競争激化などによるストレス社会により、心身とも健康不安が増加。

22　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」の背景

ろうきん森の学校＝
企業・団体×NPO×地域社会の連携による
課題解決の試み



23　NPO法人ホールアース研究所

「ろうきん森の学校」の特色

① 「森づくり」から、「人づくり・地域づくり」につなげる自然学校
体験的な手法、森の魅力を実感できるプログラムがメイン。
活動を通じて、都市部からの交流人口を増やし地域活性化に寄与。

② 現地NPOが主導する「地域主体型」活動の定着
基本方針は全国共通。活動は地域の実情に合わせた柔軟な展開。短期間に成果を焦らず、10年間という長期に亘った活動の定着を重視。

③ 支援団体関係者への体験プログラムを通じた「環境マインドの醸成」
支援団体関係者（ろうきん関係者）への研修プログラムを積極的に実施。
自然体験でリフレッシュ、みじかな環境問題の実感、チームワークの醸成など、参加者が様々な「森の学校」効果を実感。

24　NPO法人ホールアース研究所

これまで5年間の成果

① 活動拠点の整備と推進体制の構築
開始から3年間の立ち上げ期間で集中的にインフラを整備（遊歩道・キャンプサイト・資材小屋等）。現地NPOの会員やボランティアが集まりマンパワーも増えてきた。

② 自然体験プログラムの開発
各地区の特色を活かしたプログラムが充実。カヌー、アウトドア料理の他、休耕田を活用した食農プログラムも開発。

③ 活動の認知
広報紙・WEBの独自メディアの他、地元記事掲載や地区労金店舗での広報など、活動が着実に地域に認知されつつある。

④ 地区労金、学校等地域との連携
地区労金（東北・静岡・中国）ならびに関係団体（労福協等）の職員や、地元小学校を対象としたイベントを実施。

25　NPO法人ホールアース研究所

これまで5年間の成果

① 活動拠点の整備と推進体制の構築

建築中の研修施設「森の教室」（広島地区）

遊歩道を皆で整備（福島地区）

26　NPO法人ホールアース研究所

これまで5年間の成果

② 自然体験プログラムの開発

～アウトドアから郷土料理づくりまで幅広く～

対象地の中心・万代池でのカヌー体験（広島地区）

地元の方を講師に伝統料理づくり（富士山地区）

27 NPO法人ホールアース研究所

これまで5年間の成果

③ 活動の認知 ～広報・情報発信～

活動の様子を伝える「森の学校だより」
2009年までで通算15号を発行。

静岡県主催の森林CSRフォーラムにて活動事例を発表
（富士山地区）

28 NPO法人ホールアース研究所

これまで5年間の成果

④ 地区労金、学校等地域との連携促進

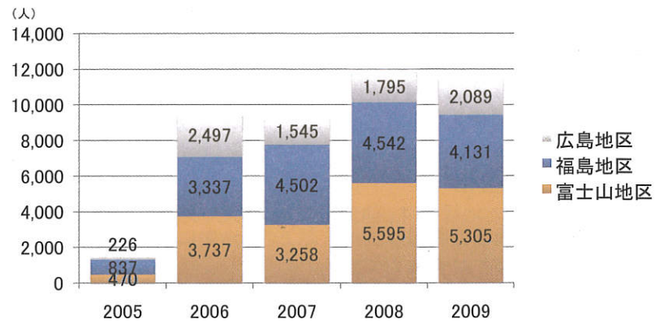
中国労金の新人職員研修での枝打ち体験
（広島地区）

地元小学校の校外学習での森の学校利用
（福島地区）

29 NPO法人ホールアース研究所

これまで5年間の成果

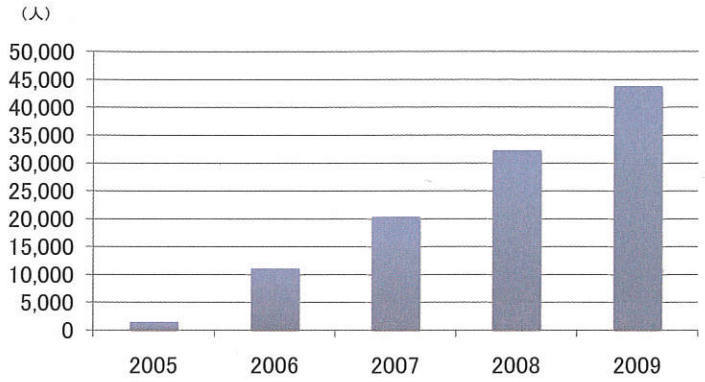
2006年度より活動が本格化し、1万人前後が毎年プログラムに参加



30 NPO法人ホールアース研究所

これまで5年間の成果

2009年度10月末までに3地区を合わせて、のべ4万人を超える方が森の学校に参加



31　NPO法人ホールアース研究所

これからの課題

① 活動を継続させるための自立運営への移行

労働金庫連合会からの活動資金支援は2005年から2014年までの10年間。今後、引き続き活動を維持・発展させるための**自立運営への移行**が課題。

② 活動を広げるための仕掛け

各地区で独自の制度で会員やボランティアを募集中。
より広範な参加を生み出すことが課題。労働組合に太い絆をもつろうきんの特色を活かし、団体との連携を強化したい。また、効果的な情報発信の場も模索中。

③ 地域との連携強化

学校や自治会など地縁団体、他分野のNPOなど、地域に密着した諸団体との連携を強め、**地域の問題解決に貢献**できる活動に発展したい。

④ 企業と地域を結ぶ大きな実験

企業のCSR実験として地域社会にしっかり入った**活動の成果と検証**をする。

32　NPO法人ホールアース研究所